

エコアクション 21

環境活動レポート

2018 年度版

(2018 年 4 月～2019 年 3 月)



～ Seibu 夜桜～

LED 照明によるライトアップ

西部電機株式会社

2019 年 6 月 30 日発行

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲(認証・登録範囲)	2
3. 環境方針	3
4. 環境経営目標	4
① 全社	4
② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	5
③ 支店・営業所・サービスセンタ	6
5. 環境経営計画	7,8
6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性	9
7. 環境経営目標の実績と環境経営計画の取組結果及びその評価、 今後の取組	10
(1) 二酸化炭素排出量の削減	11
(2) 廃棄物排出量の削減	12
① 一般廃棄物排出量の削減	12
② 産業廃棄物排出量の削減	13
(3) 水使用量の削減	14
(4) 物質使用量(購入量)の削減	14
(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進	15
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	16
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無	16
9. 内部監査の実施状況	16
10. 環境教育訓練の実施状況	17
11. 全体の反省と今後の取組	17
12. 代表者による全体評価と見直しの結果	17
13. 地域への貢献	17

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

西部電機株式会社 取締役社長 宮地 敬四郎

(2) 本社及び支店・営業所所在地

本社	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号	
支店	東京支店	〒136-0071 東京都江東区亀戸二丁目26番11号
	大阪支店	〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目4番5号
営業所	名古屋営業所	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	広島営業所	〒730-0051 広島市中区大手町二丁目2番9号
	九州営業所	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
出張所	札幌出張所	〒060-0033 札幌市中央区北三条東八丁目352番地
	仙台出張所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町17番22号
サービス センタ	東京サービスセンタ	〒272-0014 千葉県市川市田尻一丁目13番2号
	名古屋サービスセンタ	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	大阪サービスセンタ	〒567-0803 大阪府茨木市中総持寺町1番17号
	九州サービスセンタ	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
工場	本社工場 〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号	

URL : <http://www.seibudenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者

専務取締役 藤岡 敬正

(4) 担当者連絡先

生産技術部 生産技術課 課長 松岡 大使
事務局 権藤 利佳
TEL 092-941-1525 FAX 092-941-1520
E-mail : matsuoka-ta@seibudenki.co.jp

(5) 主要な事業内容

事業部門	主要な商品及び事業
搬送機械（マテハン）部門	立体自動倉庫、FAシステム、ケース自動ピッキングシステム、搬送・ハンドリングシステム、ロボティクスマテハン
産業機械部門	バルブアクチュエータ、ゲート駆動装置
精密機械部門	超精密・高精密ワイヤ放電加工機、超精密ワイヤ放電加工機（油仕様） 高精密小形NC旋盤、正面旋盤

(6) 事業規模

（2018年度実績：2018年4月～2019年3月）

区分	搬送機械	産業機械	精密機械	生産技術部	管理部門	合計
売上高(百万円)	14,463	5,609	8,394	-	-	28,466
従業員数(人) <内支店・営業所>	172 <59>	136 <44>	101 <15>	55	40 <7>	504 <125>
敷地面積	65,830 m ² （本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタの合計）					

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 対象組織

西部電機株式会社 (従業員数 504 人)

① 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

〒 811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

② 支店・営業所・サービスセンタ

東京支店

大阪支店

名古屋営業所・名古屋サービスセンタ

広島営業所

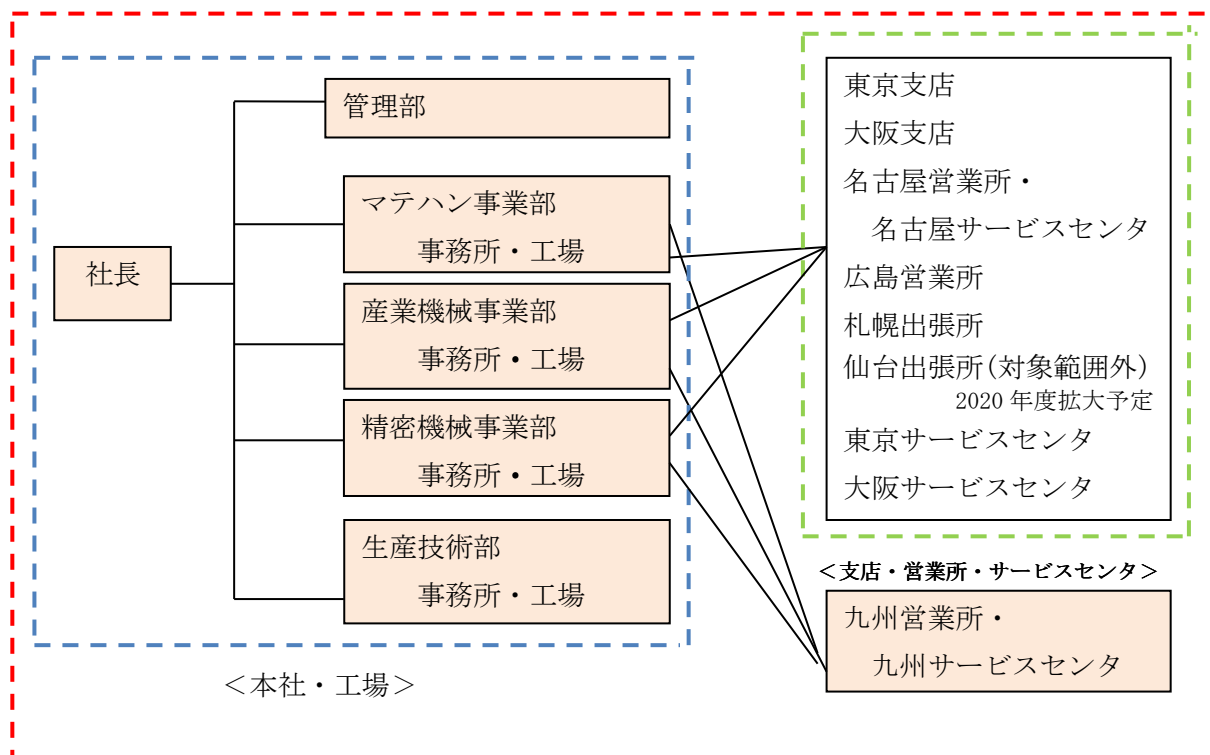
札幌出張所

東京サービスセンタ

大阪サービスセンタ

(2) 対象活動

搬送機械、産業機械、精密機械(ワイヤー放電加工機・工作機械)の製造販売



[全社組織図]

3. 環境方針

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用で、メカトロニクス製品を提供し、広く社会に貢献しています。今、地球環境の改善が世界共通の重要課題として認識される中、当社も企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に努めています。今後も「環境と共存する西部電機」を目標に、積極的かつ継続的に改善活動を図ります。

環境スローガン

「未来に残そう豊かな自然」

基本理念

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用と、環境に配慮した企業活動及び社員の行動によって、地球環境の保全と改善を継続的に推進します。

行動指針

1. 企業活動にともなう環境への影響を把握し、環境保護の継続的改善と環境汚染の予防に取り組みます。
2. 環境に関する法規制、条例及び地域との協定などを遵守すると共に、「具体化対策」の策定及び実施により、環境保全の一層の向上に取り組みます。
3. エネルギー消費の削減、特に電力使用量の削減を図り、地球温暖化防止に努めます。
4. 廃棄物の削減と分別回収を図り、再資源化、再使用を推進し、資源の有効活用に努めます。
5. 省エネ、小形軽量化、部品点数の削減等環境に配慮した商品開発を推進します。
6. 化学物質の管理を徹底し、排出や流出などによる環境汚染の防止に努めます。
7. 購買に関しては、環境負荷の少ない資材、設備などグリーン調達を推進します。
8. 環境保護に関する社員教育を実施し、環境保全の意識向上に努めます。
9. 地球社会の一員として、環境保全の責任を果たし、安全で快適な地域社会づくりに貢献します。
10. 資源である水の有効利用を推進するため、節水に努め、水使用量の削減に努めます。

制定日 2012年9月25日

改定日 2013年7月 1日

西部電機株式会社

取締役社長

宮地 敬四郎

4. 環境経営目標

- 当社では、2012年10月よりエコアクション21の取組を開始し、2013年9月認証を取得、その活動を維持継続するため、2018年度の環境目標を次のように策定しました。
- 2016年9月に認証を拡大した各支店・営業所分も、2014年度データを基に目標を策定、併せて全社としての目標も策定しました。
- 2015年度より、すべての環境負荷値について基準年を2014年度に変更し、排出量を売上高で除した値を基に毎年1%の追加削減目標を設定しました。
- 2018年度より、改善活動(VE、IE)について効果金額の目標を設定しました。

① 全社

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標			
		2014年度 (実績値)	2018年度	2021年度 (3年後目標)	2023年度 (5年後目標)		
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	240	231 (△4%)	224 (△7%)	219 (△9%)		
二酸化炭素 排出量の削減	①電力使用量の削減	208	199 (△4%)	193 (△7%)	189 (△9%)		
	②ガソリン使用量の削減	18.6	17.8 (△4%)	17.3 (△7%)	16.9 (△9%)		
	③その他の化石燃料の削減	14.1	13.6 (△4%)	13.2 (△7%)	12.9 (△9%)		
(2) 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	kg/ 百万円	2.16	2.08 (△4%)	2.01 (△7%)	1.97 (△9%)	
	②産業廃棄物の削減	kg/ 百万円	10.45	10.03 (△4%)	9.72 (△7%)	9.51 (△9%)	
(3) 水使用量の削減	m ³ / 百万円	0.51	0.49 (△4%)	0.48 (△7%)	0.47 (△9%)		
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/ 百万円	8.58	8.24 (△4%)	7.98 (△7%)	7.81 (△9%)		
(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	492	507	517	
	効果金額	VE	-	355,800	366,474	373,590	
		IE	千円	-	26,000	26,780	27,300
		合計	-	381,800	393,254	400,890	
②環境に配慮した製品の開発	件	5	3	6	8		
(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する				

- 備考) ・ 二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。
 … 東京電力(株) 0.505 中部電力(株) 0.497 関西電力(株) 0.531 中国電力(株) 0.706 九州電力 0.584 kg-CO₂/kWh
 ・ ()は基準年に対する削減率を示す。
 ・ 基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・ その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・ 環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2016年度経営計画を基に作成した。
 ・ 環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。
 ・ 表中の - は非該当を示す。

② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標		中長期目標				
		2014年度 (実績値)	2018年度		2021年度 (3年後目標)		2023年度 (5年後目標)		
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	215	207	(△4%)	200	(△7%)	196	(△9%)	
	①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	200	192	(△4%)	186	(△7%)	182	(△9%)
	②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	6.5	6.2	(△4%)	6.0	(△7%)	5.9	(△9%)
	③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	8.9	8.5	(△4%)	8.2	(△7%)	8.1	(△9%)
(2) 廃棄物の削減	kg/ 百万円	1.87	1.80	(△4%)	1.74	(△7%)	1.71	(△9%)	
	②産業廃棄物の削減	kg/ 百万円	10.00	9.60	(△4%)	9.30	(△7%)	9.10	(△9%)
(3) 水使用量の削減	m ³ / 百万円	0.47	0.45	(△4%)	0.44	(△7%)	0.43	(△9%)	
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/ 百万円	8.32	7.98	(△4%)	7.73	(△7%)	7.57	(△9%)	
(5)	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	492	507	517			
	効果金額	VE		355,800	366,474	373,590			
		IE	千円	-	26,000	26,780	27,300		
		合計			381,800	393,254	400,890		
	②環境に配慮した製品の開発	件	5	3	6	8			
(6)	化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する					

備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の、九州電力株の実排出係数 0.584kg-CO₂/kWh を用いた。
 ・()は基準年に対する削減率を示す。
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2015年度経営計画を基に作成した。
 ・環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。
 ・表中の - は非該当を示す。

③ 支店・営業所・サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

	項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
			2014年度 (実績値)	2018年度	2021年度 (3年後目標)	2023年度 (5年後目標)
(1) 二酸化炭素排出量の削減	① 二酸化炭素排出量	支店・営業所・サービスセンタ 計	25.0	24.0 (△4%)	23.2 (△7%)	22.7 (△9%)
		東京	3.39	3.26	3.15	3.09
		東サ	8.09	7.77	7.52	7.36
		大阪	1.63	1.57	1.52	1.48
		大サ	4.18	4.01	3.89	3.80
		名古屋	6.51	6.25	6.05	5.92
		広島	1.17	1.13	1.09	1.07
		支店・営業所・サービスセンタ 計	7.55	7.25 (△4%)	7.02 (△7%)	6.87 (△9%)
	東京	1.98	1.90	1.84	1.81	
	東サ	1.62	1.56	1.51	1.48	
	大阪	0.77	0.74	0.72	0.70	
	大サ	0.76	0.73	0.71	0.69	
	名古屋	1.50	1.44	1.39	1.36	
	広島	0.91	0.87	0.85	0.83	
	支店・営業所・サービスセンタ 計	12.1	11.6 (△4%)	11.3 (△7%)	11.0 (△9%)	
	東京	1.41	1.35	1.31	1.28	
	東サ	2.21	2.12	2.05	2.01	
	大阪	0.86	0.82	0.80	0.78	
	大サ	2.74	2.63	2.55	2.49	
	名古屋	4.65	4.47	4.33	4.23	
	広島	0.26	0.25	0.25	0.24	
	支店・営業所・サービスセンタ 計	5.30	5.09 (△4%)	4.93 (△7%)	4.82 (△9%)	
	東京	0.00	0.00	0.00	0.00	
	東サ	4.26	4.09	3.96	3.87	
大阪	0.00	0.00	0.00	0.00		
大サ	0.68	0.66	0.63	0.62		
名古屋	0.36	0.35	0.33	0.33		
広島	0.00	0.00	0.00	0.00		
(2) 廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,399	4,223 (△4%)	4,091 (△7%)	4,003 (△9%)
		東京	1,261	1,210	1,172	1,147
		東サ	445	427	414	405
		大阪	1,086	1,042	1,010	988
		大サ	892	856	830	812
		名古屋	478	459	445	435
		広島	238	228	221	216
	支店・営業所・サービスセンタ 計	6,885	6,609 (△4%)	6,403 (△7%)	6,265 (△9%)	
	東京	3,620	3,475	3,367	3,294	
	東サ	1,515	1,454	1,408	1,378	
名古屋	1,750	1,680	1,628	1,593		
(3) 水使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	518	497 (△4%)	482 (△7%)	482 (△9%)	
	東京	-	-	-	-	
	東サ	211	203	196	192	
	大阪	-	-	-	-	
	大サ	124	119	115	113	
	名古屋	183	176	170	167	
	広島	-	-	-	-	
(4) 物質購入量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,024	3,863 (△4%)	3,742 (△7%)	3,662 (△9%)	
	東京	1,231	1,182	1,145	1,120	
	東サ	806	774	750	733	
	大阪	791	759	736	720	
	大サ	477	458	444	434	
	名古屋	590	566	549	537	
	広島	129	124	120	117	

- 備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。
 ・… 東京電力(株) 0.505 中部電力(株) 0.497 関西電力(株) 0.531 中国電力(株) 0.706 kg-CO₂/kWh
 ・()は基準年に対する削減率を示す。
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・東京サービスの基準年水使用量に関しては、水もれが発生しているため、推定値で示した。
 ・札幌出張所は、東京支店に含む。
 ・表中の各サイトの略称は、下記の通りである。
 東京 … 東京支店、東サ … 東京サービスセンタ、大阪 … 大阪支店、大サ … 大阪サービスセンタ
 名古屋 … 名古屋営業所・名古屋サービスセンタ、広島 … 広島営業所
 ・表中の - は不明又は非該当を示す。

5. 環境経営計画

- 2018年度の環境経営計画は、以下のとおりです。
- なお、「本社・工場」は「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」を、「支・営・サ」はその他の支店・営業所・サービスセンタを示しています。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト		
			本社・工場	支・営・サ	
①	電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○	
		エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○	
		毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○	
		気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	-	
		エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20℃にする。	-	○	
		精密工場の温度設定を夏期24℃、冬期22℃にする。	○	○	
②	ガソリン使用量の削減	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○	
		計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○	
③	その他の化石燃料の削減	軽油使用量の削減	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
		ガス使用量の削減	データを収集分析し、EA21委員会へ報告する。	○	-
			精密工場の温度、湿度の設定値を見直し、削減を図る。	○	-

(2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
ア	生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○
イ	シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-

② 産業廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	サ
ア	廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	-
イ	廃油の削減	業者に買取が可能な廃油は、分別を徹底させ、200Lドラム缶単位で排出量を把握し、EA21委員会に報告する。	○	○
ウ	廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	-

* 「サ」はサービスセンタを示す

(3) 水使用量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	日常生活水の削減	節水シールを貼り、節水を意識づける。	○	○

(4) 物質使用量（購入量）の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	木材、ダンボール、紙使用の削減	毎月購入量を集計し、EA21委員会にて報告、廃棄量と合わせて、削減案立案に向け分析する。	○	○

*「支・営・サ」は紙使用のみ

(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3ヵ月に一度)及び活動の推進。	○	○
②	環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○	-

(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○	-

(7) その他

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	内部監査の実施	内部監査計画書に基づき年に1度内部監査を行う。支店・営業所・サービスセンタは、必要書類の作成を行う。	○	○
②	教育訓練の実施	教育訓練計画書に基づき、定期的に教育訓練を行い、エコアクション21の全社員への浸透を図る。	○	○

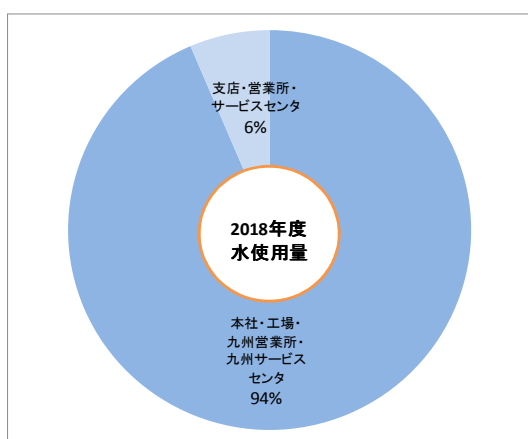
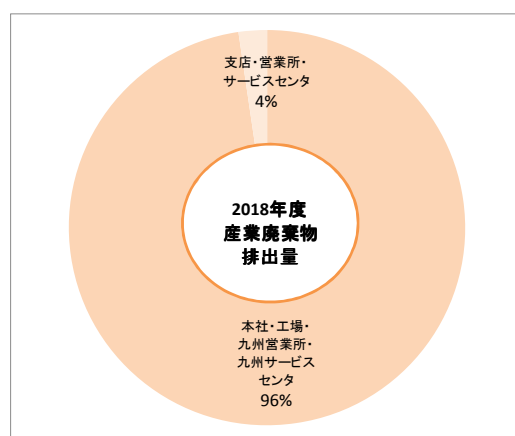
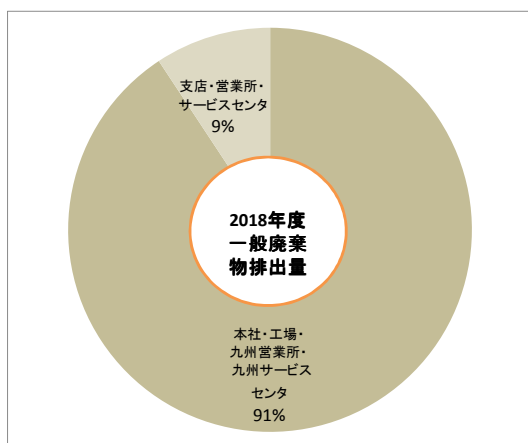
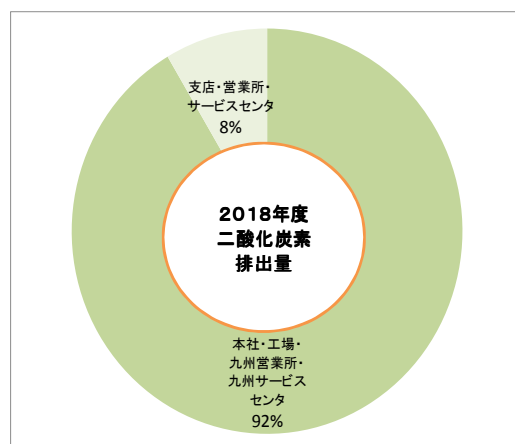
* - は非該当

6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性

- 当社の主要環境負荷（二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量（総排水量））のサイト別排出構造は、以下のとおりです。
- いずれの環境負荷も「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」が全社の約9割を占めており、「支店・営業所・サービスセンタについては、1割前後で小さいという排出特性をもっています。

環境負荷の実績及び配分

サイト名	二酸化炭素		一般廃棄物		産業廃棄物		水使用量		
	実績(kg-CO2)	構成比	実績(kg)	構成比	実績(kg)	構成比	実績(m3)	構成比	
本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	3,747,007	92%	35,638	91%	204,052	96%	8,371	94%	
支店・営業所・サービスセンタ	東京支店・札幌出張所	46,328	1.1%	837	2.1%	0	0%	-	-
	東京サービスセンタ	126,778	3.1%	725	1.8%	2,963	1%	263	3.0%
	大阪支店	21,841	0.5%	1,090	2.8%	0	0%	-	-
	大阪サービスセンタ	61,723	1.5%	320	0.8%	1,338	1%	109	1.2%
	名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	81,011	2.0%	458	1.2%	4,934	2%	170	1.9%
	広島営業所	9,514	0.2%	207	0.5%	0	0%	-	-
	計	347,196	8%	3,837	9%	9,235	4%	542	6%
全社合計	4,094,203	100%	39,275	100%	213,287	100%	8,913	100%	



7. 環境経営目標の実績と環境経営計画の取組結果及びその評価、今後の取組

- 今回は2018年度（2018年4月～2019年3月）における環境への取組状況を「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」、「支店・営業所・サービスセンタ」及び「全社」に区分して整理、評価しました。
- 原単位表記した環境経営目標については、実績値を期間内の売上高で割って計算しています。

<環境経営目標の実績（全社）>

- 環境経営目標の達成実績（全社）は以下のとおりです。設定した6項目（サブ含め10項目）のうち、「環境に配慮した製品の開発」については、目標を達成できませんでした。

（事業年度：4月～翌年3月）

項目	単位	2014年度 (基準年)	2017年度	2018年度 (2018年4月～2019年3月)				排出量及び使用量(購入量)実績				
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標達成率	達成状況判定	単位	2014年度	2017年度	2018年度	
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	240	188	231	143.8	160%	○	kg-CO ₂	3,646,207	4,133,302	4,093,836	
①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	208	168	199	128.5	155%	○		3,149,729	3,691,665	3,656,964	
②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	18.6	12.3	18.0	9.5	190%	○		281,913	269,860	270,554	
③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	14.1	7.8	13.6	5.9	232%	○		214,565	171,776	166,318	
(2) 廃棄物の削減	kg/百万円	2.16	1.79	2.08	1.38	151%	○	kg	32,931	39,288	39,275	
②産業廃棄物の削減	kg/百万円	10.45	8.22	10.03	7.49	134%	○		158,446	180,602	213,287	
(3) 水使用量の削減	m ³ /百万円	0.52	0.39	0.50	0.31	160%	○	m ³	7,574	8,520	8,913	
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/百万円	8.58	6.99	8.24	6.78	122%	○	kg	130,127	153,564	192,954	
(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進												
①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	533	512	492	556	113%	○	件	533	512	556	
効果金額	円	-	-	-	35,196	-	-	円	-	-	35,196	
②環境に配慮した製品の開発	件	5	2	3	1	33%	×	件	5	3	1	
(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	届出済	2019年6月届出済				○	-	-	-	-

備考) ・2018年度の生産高(売上高)は、28,466百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

- 環境経営目標毎にとりまとめた目標達成状況の詳細と、それに対応した取組活動の実施状況、その評価と今後の取組方針は以下に示すとおりです。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

環境経営目標を全項目で達成できました。各職場で目標管理が徹底されています。排出量は、生産量（売上）の増加に対し減少しています。要因は、冬場の気温が平均で1～3℃高く、電力使用量が抑えられたためです。2019年度は、新工場も本格稼働するため、変化を注視し、節電を呼び掛けていきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	基準年	2017年度 (2017年4月～ 2018年3月)		2018年度 (2018年4月～ 2019年3月)		目標 達成率	達成状 況判 定	2017年度 排出量 (kg-CO ₂)	2018年度 排出量 (kg-CO ₂)
		2014年度 実績値	実績値	目標値	実績値					
本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	215	172	207	132	157%	○	3,786,390	3,747,007	
		支店・営業所・サービスセンタ	25.0	15.8	24.0	12.2	197%	○	346,911	346,830
		全社	240	188	231	144	160%	○	4,133,302	4,093,836
① 電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	200	163	192	125	154%	○	3,584,613	3,559,658	
		支店・営業所・サービスセンタ	7.5	4.9	7.3	3.4	213%	○	107,052	97,307
		全社	208	168	199	128	155%	○	3,691,665	3,656,964
② ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	6.5	4.8	6.2	3.6	174%	○	105,361	101,658	
		支店・営業所・サービスセンタ	12.1	7.5	11.6	5.9	196%	○	164,499	168,895
		全社	18.6	12.3	17.8	9.5	188%	○	269,860	270,554
③ その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	都市ガス	7.4	3.5	7.1	2.2	317%	○	76,587	64,042
		液化石油ガス(LPG)	0.9	0.8	0.9	0.8	116%	○	18,650	21,649
		軽油	0.5	0.1	0.1	0.0	100%	○	1,180	0
		計	8.8	4.3	8.5	3.0	281%	○	96,416	85,691
		支店営業所・サービスセンタ	5.3	3.4	5.1	2.8	179%	○	75,360	80,628
		全社	14.1	7.8	13.6	5.9	232%	○	171,776	166,318

備考) ・2018年度の生産高（売上高）は、28,466百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 電力使用量の削減	日常的節電（人がいぬときは照明、PCオフ等）各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○
	エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○
	毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○
	気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	-
	エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20°にする。	-	○
② ガソリン使用量の削減	精密工場の温度設定を夏期24°、冬期22°にする。	○	○
	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集（毎月）・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
③ その他の化石燃料の削減	計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○
	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集（毎月）・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
	データを収集分析し、EA21委員会へ報告する。	○	-
軽油使用量の削減	精密工場の温度、湿度の設定値を見直し、削減を図る。	○	-
		○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない
-：非該当

(2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物排出量の削減

環境経営目標を達成できました。生産量（売上）の増加に対し、排出量は前年とほぼ変わらない状態に抑えられています。しかし「生ごみ・その他」に関しては年々増加傾向です。また、分別の仕方などの周知にも、部署や個人で差があることが分かりました。方法を工夫し周知徹底を図っていきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目		単位	2014年度 (基準年)	2017年度	2018年度 (2018年4月～2019年3月)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度 排出量 (kg)	2017年 度排出量 (kg)	2018年 度排出 量(kg)
			実績値	実績値	目標値	実績値					
① 一般 廃棄物 排出量 の削 減	九州 サー ビス セン タ 本 社 ・ 工 場 ・ 支 店 ・ 営 業 所 ・ 支 店 ・ 営 業 所 ・ サ ー ビ ス セ ン タ	生ごみ・その他	1.59	1.35	1.53	1.08	142%	○	24,114	29,782	30,652
		シュレッダー屑	0.04	0.05	0.04	0.03	124%	○	344	1,092	880
		OA用紙	0.20	0.177	0.19	0.14	144%	○	3,080	3,900	3,850
		その他一般廃棄物	0.06	0.033	0.06	0.01	641%	○	994	716	256
		計	1.89	1.61	1.82	1.25	145%	○	28,532	35,490	35,638
	支店・営業所・サービスセンタ	kg	4,399	3,798	4,223	3,637	116%	○	4,399	3,798	3,637
	全 社	kg/百 万円	2.16	1.79	2.08	1.38	151%	○	32,931	39,288	39,275

備考) ・2018年度の生産高(売上高)は、28,466百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
ア 生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○
イ シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない
-：非該当



* 工場新設に伴い、危険物倉庫及び切粉置場を移動、新設しました。

② 産業廃棄物排出量の削減

環境経営目標を達成できました。しかしながら、排出量は前年に比べ増加しています。要因は生産増によるものです。廃棄部署が特定しづらいことはいぜんとして課題となっていますが、置場等の周知にも、部署や個人で差があることが分かりました。方法を工夫し、周知徹底を図っていきます。ダンボールに関して、2019年度より有価買い取りが可能となりました。排出量の削減が期待出来ます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度 (基準年)	2017年度	2018年度 (2018年4月～2019年3月)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度 排出量 (kg)	2017年度 排出量 (kg)	2018年度 排出量 (kg)	
		実績値	実績値	目標値	実績値						
② 産業廃棄物排出量の削減 九州サービスセンター 本社・工場・	廃プラスチック	kg/百万円	2.2	0.9	2.1	0.6	344%	○	33,099	20,466	17,509
	廃油	kg/百万円	3.4	3.0	3.3	2.8	119%	○	51,888	65,012	79,543
	木材	kg/百万円	3.1	2.8	3.0	2.5	119%	○	47,374	62,090	72,460
	ダンボール	kg/百万円	1.3	1.3	1.2	1.2	101%	○	19,200	28,730	34,540
	計	kg/百万円	10.0	8.0	9.7	7.2	135%	○	151,561	176,298	204,052
	支店・営業所・サービスセンタ	kg	6,885	4,334	6,680	4,334	154%	○	6,885	4,334	9,235
全社	kg/百万円	10.45	6.90	10.1	7.5	134%	○	158,446	180,632	213,287	

- 備考) ・2018年度の生産高(売上高)は、28,466百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	サ
ア 廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	-
イ 廃油の削減	業者買取が可能廃油は、分別を徹底させ、200Lドラム缶単位で排出量を把握し、EA21委員会に報告する。	○	○
ウ 廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(3) 水使用量の削減

環境経営目標を達成できました。使用量も新工場建設工事への水使用の影響はあったものの、前年よりわずかな増加に抑えられています。今後も、新工場稼働後の状況や、夏場の散水管理がきちんと行われているかなど注視していきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度(基準)	2017年度	2018年度 (2018年4月～2019年3)		目標達成率	達成状況判定	2014年度	2017年度	2018年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値			使用量 (m ³)	使用量 (m ³)	使用量 (m ³)	
① 水使用量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	m ³ /百万円	0.47	0.36	0.45	0.29	152%	○	7,056	7,974	8,371
	支店・営業所・サービスセンタ	m ³	518	0.02	497	542	92%	×	518	546	542
	全社	m ³ /百万円	0.52	0.39	0.50	0.31	161%	○	7,574	8,520	8,913

備考) ・2018年度の生産高(売上高)は、28,466百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 日常生活水の削減	節水シールを貼り、節水を意識づける。	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(4) 物質使用量(購入量)の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、使用量は前年より増加しています。要因は、生産量(売上)の増加です。使用部署の把握が課題となっており、払出表の置場や書き方の工夫を行っていきます。また、産業機械事業部において、ソフト開発し、タブレットで仕様書・指示書・図面等を閲覧し、必要箇所のチェックが出来るようになりました。今後の紙利用の削減に大きく期待できます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度(基準)	2017年度	2018年度 (2018年4月～2019年3)		目標達成率	達成状況判定	2014年度	2017年度	2018年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値			使用量 (kg)	使用量 (kg)	使用量 (kg)	
① 物質使用量の削減	九州サービスセンタ 本社・工場	木材	4.5	4.0	4.3	4.5	97%	×	67,735	88,321	126,763
		ダンボール	3.3	2.3	3.2	1.7	182%	○	49,679	50,674	49,730
		紙	0.6	0.5	0.6	0.4	126%	○	8,688	10,337	12,582
		計	8.3	6.8	8.1	6.6	121%	○	126,103	149,332	189,075
	支店・営業所・サービスセンタ	kg	4,024	4,232	3,863	3,878	100%	×	4,024	4,232	3,878
全社	kg/百万円	8.6	7.0	8.3	6.8	123%	○	130,127	153,564	192,953	

備考) ・2018年度の生産高(売上高)は、28,466百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 木材、ダンボール、紙使用の削減	毎月購入量を集計し、EA21委員会にて報告、廃棄量と合わせて、削減案立案に向け分析する。	○	○

備考) 実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

(5) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

① 環境改善活動 (QC, VE, IE) の完結報告

環境改善活動は、環境経営目標を達成できました。しかしながら、上半期では目標を達成できていません。QCに関しては、計画どおり完結できている部署と、そうでない部署との差があるようです。活動の仕方の違いなど、事務局と協力して調査し、改善に繋げていきます。また、今年度より、VE、IEに関して効果金額を目標値として追加しましたが、目標を達成できませんでした。今後も、効果金額にも目を向け活動していきます。

② 環境に配慮した製品の開発

環境配慮製品の開発に関しては、今年度3件着手し、1件完了しましたが、結果的には目標を達成できませんでした。未完のものに関しては、次年度も開発を継続します。今後は、完結件数だけでなく、エネルギー使用量の低減や重量の軽減など、環境改善に関する具体的数値を目標化することを目指し、データ収集などを行っていきます。

<環境経営目標の達成状況>

環境経営目標項目	単位	2014年度 (基準年)	2017年度	2018年度(2018年4月～2019年3月)						目標 達成率	達成 状況 判定
				上半期		下半期		年度計			
				実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
① 環境改善活動(QC、VE、IE)の 完結報告件数	件	533	496	344	213	148	343	492	556	113%	○
効果金額	千円	-	-	-	22,077	-	13,136	381,800	35,213	9%	×
② 環境配慮製品の開発	件	5	2	\	0	\	1	3	1	33%	×

備考) ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3カ月に一度)及び活動の推進。	○	○
② 環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○	-

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

(6) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

今後も法令に基づき、毎年6月に使用量の届出を行うと共に、四半期毎に使用量を集計することで、排出量の管理を行っていきます。

<環境経営目標の達成状況>

- PRTR制度対象物質の適正使用に関して、データ収集し、2019年6月に使用量届出を行いました。

<環境経営計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○	-

備考)・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無

- 当社に関する環境関連法規等の遵守事項は、以下のとおりであり、2018年度遵守状況を確認した結果、法令違反等はありませんでした。
- また、関連機関や利害関係者からの違反指摘や訴訟等は、過去3年間ありませんでした。

主な環境関連法規	主な遵守事項
廃棄物処理法	マニフェストの発行、保管
フロン排出抑制法	許可業者への委託及び定期点検の実施
化管法 (PRTR法)	特定化学物質の排出量を年に1度6月に届出する

9. 内部監査の実施状況

- 外部審査に先立って、環境管理システム全体の状況を内部監査した結果、環境への取組についてのガイドラインで規定する要求事項に適合していることを確認しました。
- 結果を代表者に報告し、環境管理責任者の指示を受け、新工場稼働後の二酸化炭素排出量や水使用量の変化等を注視し活動を行っています。

10. 環境教育訓練の実施状況

- 教育訓練計画書に基づき全社員対象に以下の内容で教育訓練を行いました。

2018年	4月	・・・	エコドライブについて（車両運転者向け）
2018年	4月	・・・	エコアクション21の概要（新入社員向け）
2018年	8月	・・・	廃棄物置場の運用の説明と分別徹底の再確認。
2018年	9～10月	・・・	環境活動レポートの説明及び 2018年度活動中間報告（全社員向け）
2019年	3月	・・・	内部監査員教育

11. 全体の反省と今後の取組

エコアクション21の活動開始から6年が経過し、2016年9月には認証範囲を拡大しました。活動を通して、電力使用量や廃棄物排出量、木材やダンボールなどの使用量が、生産高に大きく影響を受けることが分かってきましたが、以前より廃棄物の廃棄部署や木材、ダンボール等の使用部署が特定しづらいことが課題となっています。また、分別や廃棄場所の周知に関しても部署や個人でまだまだ差があることが分かりました。方法を工夫することで全社に分別や廃棄ルールを周知徹底し、削減対策に繋げていきます。

12. 代表者による全体評価と見直しの結果

二酸化炭素をはじめ、廃棄物などほぼ全項目で目標を達成することができました。今後は、委員のメンバーを中心に、活動がより高いレベルで維持できるよう工夫して下さい。また、廃棄物に関しても、分別の仕方や廃棄場所の周知がまだまだ出来ていないようです。より高いレベルでの周知徹底を図って下さい。

13. 地域への貢献

- 会社周辺の清掃活動など、積極的に地域貢献を行っています。